

東中国キリスト者

福音書を共に「学び共に」読む会

シャローム



第二五四号

二〇二二年十一月二十四日発行

説教

「誰」でも 弱りはある」

日本基督教団 豊浦教会牧師 川上幹太

「キプア」に入ると、預言者の一回が彼を迎え、神の霊が彼に教へ降り、サウルは彼らのただ中で預言する状態になった。「(サ

ムエル記上十章十節)

最近、聖書研究をしている箇所から、サ

ムエル記には、預言者の初期の形態「この記録が残されています。元々「預言者」は、神の言葉を預かりのける者ではなく、先的事を宣言する者(先見者)でもなく、音楽や踊りによって気持ちを高めると、神「取り憑かれた」状態となる者であったのです。それを体験した人たちは集団を作りますが、他の多数派の民衆からは良いように見られていませんでした。ある人たちは「この人たちの父は一体誰だろう」「(十・十二)と言いましたが、父がわからない二乗性が定かでない」が、回答のみに「この尊厳すべき相手ではない」と見なして「さういふことだ。」「無」で「無」で「無」

い者として見下けられていたのです。

私も子どもの頃「このどきどき」預言する「状態」になったことがあります。それは中学校に入って間もないころのことでした。普通授業が始まるはずの時間「先生が来ないことがわかり、突如「自由」を宣言されたのです。何かフロンティアには配られたかもしれませんが。しかしそれを終える。何もやるものが無いの「すこ」に縛られているのです。課題を終えたら外へ遊びに行ってもいいんじゃないかと。しかし、代理の、見張り番をしている先生がそれを許さない。一体「これは何の訓練なのか。理不尽な命令に従う人間となるためでしょうか。しかし私の中の何が、これはおかしいと、抵抗を試みたのであります。私は鼻歌を歌い出しました。単調なメロディの繰り返しで、永遠に終わらない音楽、それは当時最新のパソコンゲームのBGMでした。いつも算力を鍛えているヤンキー生徒が、「うん、うん、黙れ」と叱り出しました。しかし先生が思っているのと同じく「お前の算力ほど迷惑じゃない。」「お前の算力ほど迷惑じゃない。」「お前の算力ほど迷惑じゃない。」

目次

説教	川上幹太牧師	0
石の証言(医師からのお手紙)		0
シャローム154号の巻頭語		0
「精神障害と教団」の本から		0
サンライズ通信		0
合併報告	清水章文	0
編集後記	難波幸夫	0

しませんでしたが、私もムキになって歌い続けていたのだと思います。他「もしもいえるな修行が仇となり、私は「シヨウニ」(知能「讀書者」持し人、の「讀書」)と呼ばれる「シヨ」になりました。今、振り返って思つのは、あのよひな出来事が「書が読める」「世にかまわなごんごん」です。神はわたしを「世(讀書)」から遠ざけ、神の御用のため「読書」したのです。そして、預言者としての存在は、形を棄てしつもその本質は始まりから、不当な抑圧「対する」抵抗者「NoBook」。

今でも、インターネットなどを見聞きする新聞ですが、何か自分の理解を超えた行動や雑言「出くわす」。『異言者』の「シッテル」を話して、自分とは無関係なものとして処理して、安心を得ようという人を見かけます。そして「読書」「私は普通」という顔をしたがる。誰「でも読めばあるのだが」知っておいたほうがいいと違いない。「自分を教せなければ、人も教せない」の「はなごんごん」か(けいおん「Don't say LAZY」)。

神は、どんな人をも分け隔てなさらない「シヨ」は、聖書「はつきり」されていゝので、すから、「この世の差別と分断」対して、偏見を断絶し立ち向かおうではありませんか。わたしは「まだ」、『預言者の仲間』なので「(十・十一)」。あの人は「新し」い「道」に「酔」っているのだ」と言われる時「聖書」がわたしに「降り」てくるのです(使徒一・十三)。

「石丸昌彦先生からのお手紙」

過日は丁寧なお便りありがとうございました。鳥取から岡山へ回り、温かく款待していただいたことを昨日のように思い出しています。あの折は本当にありがとうございました。

その後もシャロームの発信を弛まず続けていらっしやるんですね。これだけの内容のものを150余回の水きにわたって継続するのは、並大抵のことではありませぬ。心より敬意を表します。そのシャローム153号で拙文を取り上げて下さいませ

したことが、まことに嬉しい驚きでした。いったん書いて公表したものは既に独立の存在であると思えますから、御懸念には及びません。転載していただきたくて光栄の至りです。

それにしても、数回新聞の小さなコラムに目を留めてくださるなど、広くさまざまな情報にアンテナを立てていらっしやることと感心致しました。コロナ禍で生命の危険や生活基礎の喪失にさらされている人々の御苦勞を思えば、私などのように無事である者がこの程度の「ストレス」で右往左往するようでは信徒の名折れ、「お互いにしつかりしましょう」とハッパをかける気持ちでした。言及していただき、安堵するやら恥ずかしいやらといったところでは。

紙面を拝見すれば、徳福の前には鳥取教会・松岡義人兄の痛みのこもった貴い証し、後にはご自身による平良修先生就任式折掛の記事が配され、それこそ「しつかりなさい」と御使いにハッパをかけられる思いです。ありがとうございました。

お便りをいただいた後には岸田内閣が

成立し、六日のニュースでは松野氏がわざわざ神楽まで出かけて、「辺野古移設が唯一の選択肢」と言い切っている。また、神楽の方々の永い苦渋の日々に思いを馳せる一方、同僚の苦悶を顧みないばかりか、しばしば差別をもつて遇する日本と日本人に、「いずれこんな厳しい歳暮が繰り返さる」と悲憤しています。

そのような現実の中、お働きが祝された「シャローム」が真の平和を生み出すものとして、いよいよ熱心に用いられて、いよいよとうとう折り返します。

精神障害と教会

教会が教会であるために

国民病 当事者が主体となって

二〇一〇年の春、厚生労働大臣が、「精神疾患を国民の健康に重大な影響を与える「国民病」として捉え、治療から社会生活までのトータルな支援体制の構築に向けて、「この健康政策構想会議」を発足させると宣言し、夏に案案が示されました。国民の三十五人に一人が精神科を受診するか何らかの精神疾患をかかえる時代といわれています。これを機会に、よりいっそう精神疾患に対する国民の理解が深まり、先進国で一番立ち遅れているといわれる治療から社会復帰までの体制の整備が進むことが期待されます。

この案案の中で私が重視したいのは、精神疾患をかかえる本人の役割の重視です。今まででもすれば、治療ばかりでなく、社会生活の場面においても、専門家や家族の意向に従属的になりがちであった当事者が——考えてみれば当たり前のことですが——さまざまな局面で影響力を発揮し、参加することが求められるようになっていくことです。

「自分自身で共に」をモットーにかかげ、統合失調症などをかかえる人たちが自身が、症状のつらさばかりではなく、生活上の生きづらさも含めて、それらを研究テーマとして捉え、仲間どうしでメカニズムを解明し、対応策を考える「当事者研究」の在り方は、そんな時代の流れを先取りした活動であるといえます。

その意味でも、以下の相談内容は、統合失調症をもつ人がかかえる典型的な苦勞ということができるといえます。

「私は統合失調症の当事者です。洗礼を受けて六年ほどになります。救われて信仰もつ中でだいぶ癒やされた面もありますが、まだ対人関係が苦手だったり、疲れやすかったりして、教会のバザーや奉仕にはなかなか参加できません。とりなしの折りはしています。いざ対面すると話せなかつたり、持続力がなくて、知人に福音を伝えるのも尻切れトンボになったりします。教会でも家庭でも、もてなすことが苦手です。仕えたいのに仕えられない難しさを感じています。ベッドから起き上がることもひとつからイエス様に助けをいただいている状態です。弱いところに働かれる主の恵みを感じています」

ここに示された「対人関係が苦手」「疲れやすい」「いざ対面すると話せない」「持続力がなくて」「知人に福音を伝えるのも尻切れトンボになったりする」「もてなすことが苦手」「仕



えたいのに仕えられない難しさ」といったことは、統合失調症をかかえる多くの人が日常的に直面している苦勞の一面です。

そのような苦勞をかかえながらも、「弱いところに働かれる主の恵みを感じて」前向きな信仰生活を続けていらっしゃる相談者には、本当に頭が下がる思いです。それでは、この問題をどのように考えたらいいのでしょうか。同様の困難をかかえながら暮らす人たちの支援をしてきた立場から、私たちの経験を紹介させていただきます。

まず、何よりも大切なのは、それらの苦勞は、統合失調症をかかえる人の多くが日常的に直面しているものだということです。この相談者が私たちの身近な人であったならば、迷うことなく当事者研究をお勧めします。しかし、この方はすでに、自分のかかえる苦勞を相談するというかたちで、「弱さの情報公開」をしておられます。本当に大変な毎日を通りながらも、自分の苦勞にちゃんと誇りをもっていらっしゃる、その点がすばらしいと思いました。

弱さの情報公開をすると、「人の経験」が集まってきます。統合失調症は、出会いとつながりの中で回復してくるものだと私は思っています。その意味で、弱さとは、人と人をつなぐ大切な「絆」なのです。実は、統合失調症をもつ人たちの七五%がその人なりの自己対処をしているというデータがあります。つまり、当事者がかかえる困難は、すでに誰かがどこかで経験していて、克服しているか、解消した経験をもっている可能性があるのです。そのことを知るためには、やはり仲間が存在が必要です。

私たちは、統合失調症をもつ人たちの前向きな生活経験の交流の場として、当事者研究を全国各地に広める努力をしています。関連書籍も多くなってきました。地域にグループがなければ、べてるの家では、メンバーと電話やファクスやメールでお互いにかかえるつらさを分かち合い、その人なりの新しい対処方法を見いだすお手伝いをしています。独学で当事者研究に挑戦する人たちも増えてきました。相談者の文面を見るとき、すでにいろいろな対処をされていて、とても前向きな力を感じました。一緒に、「自分の助け方」を探しましょう。

9月5日、「第4回 被曝・医療 福島シンポジウム」が、コロナ感染拡大を考慮して、オンラインを中心に開催されました。内容の一部(抜粋)を紹介します。

原発事故から 10 年

ふくしま共同診療所院長 布施 幸彦

10年経った福島の現実

「年間 20^{mSv}シーベルト以下は安全」という根拠のない基準での「帰還強制」が行われています。いままも 10 万人以上の方が故郷を追われたままです。多発する小児甲状腺がんや、白血病などさまざまな健康被害が増え続けています。これが原発事故から 10 年たった福島の現実です。

小児甲状腺がんの多発

現在、県民健康調査検討委員会の公式発表では、疑いを含めて合計 260 人が小児甲状腺がんと診断されています。それ以外に、がん登録など集計外として 27 人が小児甲状腺がんにかかっていることが判明しています。あわせると 287 人です。

UNSCEAR(国連科学委員会)は「高性能のエコーによる過剰診断だ」としていますが、ウソです。その理由の一点目は、空間放射線量と小児甲状腺がんの発見率とが正比例していることです。二点目は、一般的には甲状腺がんの男女比は1対5ですが、福島では1対1.6となっており、これはチェルノブイリと同じ傾向です。三点目は、青森県で小児がん登録を 15 年実行してきた結果、小児が



◆ 報告集を販売しています

1部 650円、2部以上は1部につき 520円。ご希望の方は、上記連絡先までお問い合わせください。

◆ YouTube にて動画を配信しています



「被曝・医療 福島シンポジウム」で検索してください。QRコードを読み込んで視聴できます。

んは 454 件発生しましたが、甲状腺がんは0件でした。四点目は、福島で小児甲状腺がん手術をしている福島県立医大の鈴木眞一氏の証言です。鈴木氏は、症例について「チェルノブイリと似通っている」と報告し、「過剰診断ではない」と述べています。

汚染水海洋投棄は断固阻止を

政府は汚染水ではなく「処理水」だと言っていますが、このかん ALPS(多核種除去設備)の排気フィルターが全損していたことが明らかになりました。汚染水の海洋投棄は漁業者や被災者の生活再建を足踏にする暴挙です。県民、全国の力を合わせて、断固阻止しましょう。

サンライズ26号送付のお知らせ

福島診療所建設委員会

事務局長 渡辺 馨

日頃よりの皆様のご支援、本当にありがとうございます。サンライズ26号をお送りいたします。

今号は、9月に行われた「第4回 被曝・医療 福島シンポジウム」の報告が中心です。とりわけ、トリチウム汚染水の海洋放出に対する遠藤順子医師の指摘は、切迫している事態の中で、海洋放出を何としても止めるために、福島県民だけでなく全国民、全世界の人々にぜひとも必要な内容です。ぜひご参考にしていただきたいと思います。

内閣知事が「風評被害への補償」しか発言しないのに対し、県民の声は、7割以上の市町村議会が反対ないし疑問の決議をあげていることにも明らかです。県漁連を先頭に漁民は「ふるさとの海をこれ以上放射能で汚すな」と必死の声をあげています。地元の漁民には地元の海が命だと訴えています。まして政府・東電は「関係者の理解なしには、いかなる処分もしない」と約束していたのであって、その一方的な破棄は漁民を足蹴にするものです。原発事故の加害者が、何の反省もなく、自分勝手な都合で被害を加重しようとしていることは、事実上、原発事故を今度は意図的に繰り返すということではないでしょうか。

10年前に大震災と原発事故に直面して数十万の人々が原発廃止を叫んだたたかいを思い起こし、もう一度、立場の違いを越えて、すべての人々の力を合わせる時ではないかと思えます。

先の総選挙でも、福島県内10人の候補者に公開質問状を送り、布施幸彦院長、希望の牧場代表の吉沢正巳さん、津島からの避難者・石井ひろみさんの3人で記者会見を行いました。そこで汚染水放出に反対した立憲民主党の金子恵美さん、日本共産党の熊谷智さんの2人を支持してたたかうことを表明し（金子さんは当選、熊谷さんは落選）、今後、本当に汚染水を阻止するために、広範な県民とともに反対運動を前進させる決意を表明しました。まずは来年3・11に向かって、重層的に統一行動を広げていきたいと思えます。

10月末、NPO法人3・11甲状腺がん子ども基金が発表した臨床状況についての報告では、福島県外の甲状腺がんでは、51.7%が全摘しているのに対して、福島県内では1.2%と大きな差があると指摘されています。これは、県民健康調査が早期発見・早期治療につながっている何よりの証です。いまだに、実態として検査縮小がすすんでいるのに甲状腺がん発見が続発しています。これは放射能の影響以外には説明できないことです。県と政府（環境省）が「過剰診断だ」として検査を中止しようとしているのは、その証拠隠滅（安倍政権以来、日本の官僚組織の常とう手段になってしまった）にとどまらず、今後も多発していく甲状腺がんを、重症化することを放置することになります。この報告書を受け取った県の担当者が回答しなかったことも疑問です。

ここでも問題は10年前に引き戻されているように思えます。原発と人類は共存できない、すべての原発を廃炉にしなければならない、子どもたちの健康と命を放射能から守らなければならない。その課題は今、汚染水放出を絶対に止めること、小児甲状腺がん検診の中止・縮小を絶対に許さないことにかかっていると云えます。診療所を守っていくことと、診療所を拠点に運動を広げることをともにたたかいとっていききたいと思えます。

シャローム154号 7 会 計 報 告

2021年9月～10月

会計 清水章文

収 入		支 出		
会費(74名) (会費累計159名)	154,000 (336,000)	シャローム	20,379	
		編集関係	原稿謝礼(大塚忍牧師)	5,000
		印刷関係	用紙代、153号印刷代会場・交通費	6,305
		発送関係費	152号(ヤマト運輸)	9,074
献金(3件)	520,000	会議費	5,460	
		交通費	役員会(9/10)	3,460
		会場費	同上	2,000
		事務消耗品費	通知料金、払込料金	2,263
小 計	674,000	小 計	28,102	
前 月 より	225,735	次 月 へ	871,633	
合 計	899,735	合 計	899,735	

〔会費・献金の納入を、感謝申し上げます。〕
個別の領収証を希望される方は、遠慮なくお申し出ください。従来通り送付いたします。
よろしく願いいたします。

(敬称略・順不同)

10月末現在資金残高	
定額預金	500,000
普通預金	150,356
振替口座	148,337
現金	72,940
合 計	871,633

(年会費)

(日キ岡山教会)大塚忍・和恵、今城信子、佐々木まゆみ、須々木泰子、洲脇慶輔、富田茉莉子、橋本まり子、畑起三郎、浜井昭代、堀恭次・幾美、三浦裕子、望月英子、山口明・弘子、尾島夫規子、蔵知武、宮岡美子(2カ年) (日キ旭東教会)森言一郎・美樹 (日キ蕃山町教会)定金泰子、密田真理子、佐藤八千代、料治睦美、服部麻理女、矢野裕子、大田元子、八幡木史子、三矢玲子、河田直子 (日キ鳥取教会) 27名分 (改革バプテスト米子キリスト教会)斎藤敏行・真由美 (日キ光明園家族教会)難波幸矢 (2カ年) (在日大韓基督教会岡山教会)山本和子(2カ年) (日キ用瀬教会)井上美代子、横山陽子、下田富紗恵、萩原富士子 (日キ湖山教会)伊井尚子、岩佐洋子、久野芳枝 岡田由美子、田口久恵、佐々木美幸、前田恵、前田美喜子、諸家香代子、森田生子、山内英子、森下久美子

(献金)

日本同盟基督教団岡山めぐみキリスト教会(岡トモ子遺金)
宮岡美子(日キ岡山教会) 那須衛一(その他)

以上

